日本音楽教育メディア学会
(JAPANESE MEDIA SOCIETY FOR MUSICAL EDUCATION)
JMSME News Letter
2022.1 vol.14

発行：令和４年１月１５日
日本音楽教育メディア学会事務局
〒125-0062 葛飾区青戸５-５-１６
メールアドレス　info@jmsme.org
ホームページ
https://jmsme.org/

2022 年を迎えて

会長 田中功一（放送大学客員研究員）

学会の皆様、あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。新年早々新型コロナの感染が心配になってきました。このような状況ですが、皆様には教育・研究にますますご活躍されることを祈っております。そして学会の活動がより活発になるように期待しております。

昨年 8 月の第 12 回研究会では、「報告・ディスカッション」として「コロナ禍の教育現場より報告―対面とオンラインによる教育の『新たな日常』を考える―」を開催いたしました。コロナ禍での授業運営について様々な工夫が紹介され、討論が行われ、有意義な研究会になったと思います。このようなコロナ禍での授業運営の工夫に関する報告が Web 上に多く公開されています。その中で個人的に目に留まった記事をご紹介したいと思います。それは、NII 国立情報学研究所のホームページに公開※されている 2021/10/29 にオンライン開催された「大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム『教育機関 DX シンポ』」第 42 回の 5 番目「コロナ禍でのヒトの育ち」(明和政子 京都大学大学院教育学研究科 教授)です。公開されている概要をざっとご紹介しますと、

> コロナ禍での「新たな生活様式」が長期化し、感染症対策として他者と身体的距離をとる、密をさける、マスクを着用するなどの実践は大切ですが、ヒトは、他者との「密・接触」を基本とする社会的環境に適応しながら、長い時間をかけて進化してきた生物です。他者と身体的距離をとりながら生きる日常は、人類が経験したことのない未曾有の事態です。環境の影響を大きく受けながら脳と心を発達させる「子どもたちにとって真に必要な」新たな生活様式の提案を図っていく必要があります。その羅針盤となるのは、生物としてのヒトの脳と心の発達の科学的理解にほかなりません。

というものです。コロナ禍で対面授業や実習が減って他者との「密・接触」機会が少なくなれば、子どもの脳と心の発達に影響があると考えられます。今年はこのような視点による教育・研究にも期待したいと思います。

さて、学会の J-STAGE 掲載論文のアクセス状況について、前回に続いてのご報告です。掲載している論集は 昨年 3 月末の発刊のものです。昨年 12 月のアクセス状況は書誌事項が 180 件、全文 PDF が 126 件、11 月のアクセス状況は書誌事項が 237 件、全文 PDF が 125 件でした。論文引用数も含めて、概ね前回と同じ傾向です。
本学会の J-STAGE 掲載論文は、査読終了後に受理となった場合は論集発刊に先立って J-STAGE に早期公開となります。先生方のますますのご活躍を祈念しております。

※　https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/past.html

日本音楽教育メディア学会　第 14 回研究会のご案内

日時：2022 年 2 月 23 日（水・祝）
10：30～12：00　研修会
13：15～16：15　研究会

場所：葛飾シンフォニーヒルズ　別館　２階　ビジュアルルーム
会場とオンライン（zoom）でのハイブリッド開催となります。

参加費：会員無料　　非会員　1,000 円（事務局に参加お申し込みください）
事務局：info@jmsme.org

♫　研修会　「音楽教育と ICT」１０：３０～

招待講演：海老原　武氏（共栄大学客員教授）
「興味の導火線に火をつける～幼稚園から始める音楽表現プログラミング教育」

海老原　武氏　プロフィール
元埼玉県立高校教諭（芸術・書道、情報）。90 年代、生徒の興味を IT で企画化するマルチメディア部「会社ごっこ」を創設、全国紙等で紹介される。県、通産省、文科省等の IT 事業・教育関連の講師・委員等を歴任、2001 年より共栄大学国際経営学部教授。大学内 IT 企業（有）「かいしゃごっこ」を設立、学生の夢の起業化を支援。2016 年より共栄大学「キッズプログラミング＆ロボットスクール」開講、幼稚園、小中学生、保護者等への IT・プログラミング教育を実践中。現在、共栄大学国際経営学部客員教授、日光 IT 都市化研究所長、日本産業経済学会会員。

♫　研究会　１３：１５～

1.　「保育士・幼稚園教諭を目指す学生の自宅ピアノ練習内容の追加調査
—録音データ、アンケート、半構造化インタビューから—」
林麻由美（東京福祉大学短期大学部）、田中功一（放送大学）、辻靖彦（放送大学）

2.　「子どもの歌の歌い方について—保育者養成における指導から考える—」
松田扶美子（有明教育芸術短期大学）

3.　「演劇的要素を持つ音楽科教材 —子どもの意欲や関心を大事にする教材としてのその魅力—」
八代 健志（福井大学非常勤講師）

4.　実践報告、情報交換会など

~COLUMN~

昨年末に、サントリーホールでR.シュトラウス(Richard Georg Strauss、1864-1949)の「4つの最後の歌」(Vier letzte Lieder 1948）を聴いた。ヘルマン・ヘッセ(Hermann Karl Hesse, 1877-1962）とアイヒェンドルフ(Joseph von Eichendorff 1788-1857）の詩に、シュトラウスが音楽を付けた最晩年の作品である。美しい。
美しいとしか言い様のない音楽である。冷たく清んだ大気の中を漂うような感覚を覚えた。黄泉の国の空気は、このように透明なのだろうか。

ヘッセといえば、BUDDHA の半生を描いた「シッダールタ」(Siddhartha1922)でノーベル文学賞を受賞した作家である。ちょっと斜に構えたような超哲学的な文学を書く、哲学者ともいえるかもしれない。彼の作品の１つでもある「デミアン」(Demian: Die Geschichte von Emil Sinclairs Jugend 1919) をドイツ語で読み解いたことがある。勿論、ドイツ人の手助けを借りてのことだが。その時、人間とはなんと不可思議な生き物であるかを痛感した。そして、生きとし者は必ずや滅びることを考えさせられたものである。

それが、今回、音楽と結び付いて我が身に戻ってきた時に、身震いを覚えずにはいられなかった。時間を越えて、文学と音楽、そして聴衆が１体になったひと時だった。年頭にあたり人生を考える時、ひとつの手がかりになっていくことは間違いない。

シュトラウス「4つの最後の歌」シュバルツコプフ
https://youtu.be/qCK9srHcfok
リヒャルト・シュトラウス
「4つの最後の歌」歌詞対訳（＆所感と考察） | ふぃお～ら旅に出る
https://fiora2010.wordpress.com/snso-pg/%E3%83%AA%E3%83%92%E3%83%A3%E3%83%AB%E3%83%88%E3%83%BB%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%88%E3%83%A9%E3%82%A6%E3%82%B9%E3%80%8C4%E3%81%A4%E3%81%AE%E6%9C%80%E5%BE%8C%E3%81%AE%E6%AD%8C%E3%80%8D%E6%AD%8C%E8%A9%9E/

武蔵野音楽大学　森永美穂子

連載「子どものうた」

「子どもの歌こそ豊かな情操をはぐくむもの」

歌のジャンルの中に「子どもの歌」というカテゴリーがある。この「子どもの歌」という言葉の意味は何を指すのであろうか？

心身の発達途上の乳幼児期から小学生の子どもたちに歌われる歌を総じて「子どもの歌」と言うことが多いが、特にほかの歌と明確な差別化を図る定義は示されていない。

そこで、井口太の「幼児歌唱教材の分析」より、その分類カテゴリーより探るとする。

井口は以下のような分析のカテゴリーを示した。

・オノマトペ　・同語の繰り返し
・頭韻による語呂のよさ　・脚韻による語呂のよさ
・色の変化や数え歌のような順序性が詩のテーマになっているもの
・歌詞のほとんどの部分に定型詩のリズムをもつもの
・ 動物や花、キャラクターなどがキーワードとして興味や親しみに結び付くもの
・ 特定の行事や季節感と結びつくもの
・対話的な内容を持つもの
・一定のストーリーや、情景を描いているもの

確かに「子どもの歌」といわれるものはこのカテゴリーのいずれかの特徴を持ち合わせることが多く、これらが裏を返せば「子どもの歌」となる。ここに「曲調が明るく軽快なものが多く歌いやすいもの」というカテゴリーが加わればほぼ網羅できる。

しかしその歌としての本質は決して稚拙ではなく、情感あふれる美しい旋律や日本語の美しさ、日本語ならではの面白さなど、子どもたちの身近な文化財として豊かな情操をはぐくむその一助となっている。

かつて西條八十が述べた件がある。

それが多少難解なものであっても、詩人のほんたうの霊の響きをもつた作品は、ちゃうど偉大な作曲家の手になる音楽が無智の民衆を自然に感動させるやうに、おぼろげにも児童たちの純真な霊に呼びかけて、かれらを崇める作用を務めるでありませう。

これは西條の子ども観そのものである。研ぎ澄まされた感性の持ち主である子ども達へ与えるものは稚拙にするのではなく、子ども達なりにその感性を感じ取れるのであるから、質の良いものを与える必要がある。子ども達はよきものを感受するうちに良いものを理解できるようになる。

私たち音楽教育に携わる者にとって身の引き締まる言葉である。

私たちは「子どもの歌」の芸術的価値に責任をもって向き合わねばならない。

帝京科学大学教育人間科学部教授　飯泉祐美子

«会員メッセージ»

八代健志（福井大学非常勤講師）

メディア学会の原稿なので、気張ってＩＣＴに関して、何か‥‥と思いましたが、その方面には特にこの２年間「トホホ」な経験しか持ちません。それでは皆様の明日の元気につながらないではないか、と思い直しまして、違う最近の話題を。

兵教大をこの（2021 年）３月に終えまして、毎週一日だけ府内の大学へ非常勤で行っています（福井大へは集中で）。ここの学生さんが、オンデマンドで上げてある授業動画をいつまでたっても見ない。まぁ６～７割いました。この年度に初めて行った私が、教務の事務の方に「全然見てくれない」とボヤいたりしていたら、試験前の 13 週目のあたりに視聴回数がドーンと増加。つまりは徹夜してでも、テストに備えて固めて見ていることが判明。そういう視聴の仕方をするならするで、前以て教えておいてくれよ～～と思いました。「じゃぁ、来週の動画を見るまでに○○のことを自分でも何度か試してみて下さいね。」などと言ってたヤシロ爺さんの立つ瀬がないじゃないの。

でも、学生さんの所為ではない、コロナ騒ぎとリモート講義（特に１年生が可哀想）。通信環境を整えるのは自己責任とまで言われ、自分の貧乏学生時代を想起すればあり得ない出費を強要され、友達作りも趣味のサークルもアルバイト先も非常に困難と混迷さを増すばかり。自衛でも自己管理でも何でも方法を編み出して下さいと思う 2021 年でした。

«会員メッセージ»

兼古勝史（放送大学千葉学習センター客員准教授）

東日本大震災から 11 年目を迎えようとしています。「あれほどの大津波に前兆の音はなかったのか？」知人のノンフィクション作家からのそんな質問をきっかけに過去の事例を調べると、貞観地震（869）から安政大地震（1854）、明治(1896）、昭和（1933）の三陸大津波、チリ地震津波（1960）まで、様々な前兆音に溢れていました。大砲、雷鳴、汽船、汽車のような響き‥あるいは波音が止み、またはゴロゴロという音で浜の水が引いていることに気づき津波の前に逃げた等々。東北沿岸各地には「地震、海鳴り、ほら津波」などの標語の刻まれた津波記念碑が数多く残っています。東日本大震災の時には、前兆としての海鳴りや異音の報告が皆無ではありませんが、過去に比べて極めて少なかったように見えます。海鳴りがなくなってしまったのでしょうか？

一つは、車の音をはじめとする暗騒音の増大によるマスキング効果、そしてもう一つは、天気予報や警報システムが発達し、波の音を聞いて危険や気象の変化を察知するという「耳」が失われていることにも原因があるかもしれません。日本の沿岸各地には「磯鳴り」「海鳴き」「鳴り聞き」など海に耳を澄ます観天望気の文化が昭和の中頃までありました。村の古老が夜中に高台に登り、波や風を聞き、漁の可否を判断するのです。こうした音の在来知は地域ごとに受け継がれてきた環境に根ざした経験と風景リテラシーのなせる技だと言えます。音楽教育が、環境音・生活音も対象とするとき、こうした失われゆく音の在来知とどのように向き合うべきでしょうか‥。防災の観点からも「海鳴り」「山鳴り」「地鳴り」といった地域の「基調音」を聞く耳のありようについて、表現や鑑賞との連続性を考えてみることも意味があるように思います。（会員、事務局補佐）

会員掲示版

東日本大震災復興支援コンサート

第４回総の国童謡作詞･作曲コンクール入賞作品を含む

総の国童謡音楽祭 2022

主催/音・音楽フォーラム松戸

新しい歌とともにやさしく心に響く歌をあなたに !!

日時/2022 年 3 月 26 日(土)午後 2:00 開演
場所/松戸市民劇場
入場料/大人 2000 円（前売り 1800 円）中・高校生 1000 円（前売り 900 円）小学生以下無料

♪ プログラム ♪

第１部　授賞式コンサート
【一般部門】最優秀・詞/八嶋保孝、曲/兼古勝史「山鳩の啼く里で」千葉県
優秀・詞曲/生田美子 「ぬいぐるみの夢」東京都、詞曲/渡辺尚子「ここに歌がある」香川県、詞曲/須藤紗子「春風ひらひら手をつなごう」埼玉県
【中・高校生部門】最優秀・詞曲/小松瑞生（17 歳）「おそらをみたら」山形県、優秀・詞曲/小松愛実（高 3）「いちにち」高知県、詞曲/井上意伶那(中 3)「おはよう てんとう虫」兵庫県
【小学生部門】入賞・詞曲/伊東環(上越市立直江津小学校１年) 「きんぎょのダンス」新潟県、詞曲/瀧崎丈翔（東京学芸大学附属竹早小学校８歳）「夢の心（子守歌）」東京都

第２部　童謡の楽しみ
曲目　現在未定

歌/山中久恵、五日市田鶴子、鈴木佑未子、鈴木麻由理　ピアノ/坂下懋雅　鎌田千佳

<後援/松戸市教育委員会>(申請中)

(お問い合わせ)音・音楽フォーラム松戸　(E-mail) oto.ongaku.forum@gmail.com

会費納入のお願い

●今年度（2021 年 8 月 1 日～2022 年 7 月 31 日）の年会費（正会員）7,000 円、（学生会員）4,000 円をお願いいたします。

≪振込先≫　　ゆうちょ銀行 10510-91267401

他銀行よりお振込みいただく場合：店名 058 店番 058（普）912674

ニホンオンガクキョウイクメディアガッカイ

※入会・退会に際しまして、又、会費についてご質問等ございましたら事務局までご相談ください。

事務局だより

明けましておめでとうございます。

新型コロナウィルス感染対策と共に工夫をしながら過ごす生活も２年が経とうとしています。この期間にメディアを通してのコミュニケーションが飛躍的に発展していることは、教育現場だけではなく身近な生活場面からも感じます。これらの様々な便利さに慣れていく一方、コミュニケーション規制のある現在の乳児・幼児達の発達段階での影響を懸念する声も聞こえてきます。ポストコロナでの子ども達の人を怖がらない心と体の発達とメディアとのバランスを考えていきたいと感じています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（事務局：林麻由美、兼古勝史、鎌田千佳）